

平成29年度 佐世保市の環境問題に関する アンケート集計結果（概要版）

平成30年9月 佐世保市環境政策課

1 アンケート調査の目的

環境行政を効果的に推進するにあたり、市民や事業者の問題意識や取組状況、環境行政へのニーズを把握し、今後の環境行政の展開に活用する。

また、行政評価や佐世保市環境基本計画の成果指標となっている項目の達成度を当該アンケートにより把握するもの。

2 アンケート調査の対象

① 市民

佐世保市内に居住する20歳以上の男女（平成30年1月1日現在）のうち、支所及び行政センター管轄別の人口割合に応じて無作為に抽出した3,000名（男性1,500名、女性1,500名）

② 事業所

3 調査方法等

郵送による配布・回収（督促なし）

4 調査期間

平成30年2月9日（金）～3月9日（金）

5 回収結果

① 市民：1,184名（回収率：39.5%）

② 事業所：121事業所（回収率：48.4%）

6 調査結果

関心が高い環境問題について

《市民》

最も回答が多かった上位2項目は「地球温暖化」と「大気汚染（空気の汚れ）」であるが、大気汚染について6.7ポイントの減少が見られた。上位2項目以外について、「ごみの減量、リサイクル」について、10.2ポイントの大幅な増加がみられた。

(関心が高い順)

項目	回答数	割合	前年比	前年
地球温暖化	876	74.0%	△ 1.5%	75.5%
大気汚染（空気の汚れ）	673	56.8%	△ 6.7%	63.5%
川や海の水の汚れ	600	50.7%	4.4%	46.3%
ごみの減量、リサイクル	597	50.4%	10.2%	40.2%
ごみの散乱と不法投棄	538	45.4%	3.9%	41.5%
エネルギー問題	538	45.4%	9.3%	36.1%
外来種の繁殖による生態系などへの影響	470	39.7%	7.3%	32.4%
農作物の鳥獣被害	442	37.3%	9.8%	27.5%
オゾン層の破壊	394	33.3%	△ 0.2%	33.5%
身近な自然の減少	386	32.6%	5.5%	27.1%
工場などで使用される有害な化学物質による環境汚染	276	23.3%	△ 6.2%	29.5%
野生生物や希少な動植物の減少	260	22.0%	6.6%	15.4%
騒音、振動	257	21.7%	△ 2.3%	24.0%
土壌汚染	241	20.4%	0.9%	19.5%
悪臭	229	19.3%	△ 1.4%	20.7%
その他	75	6.3%	0.6%	5.7%
合計	6,852			

《事業所》

最も回答が多かったのは、前年度に続き「ごみの減量、リサイクル」であった。

前年と比べ、「エネルギー問題」「騒音・振動」で関心があると回答した事業所の割合が大きく減少している。「ごみの散乱と不法投棄」「身近な自然の減少」については10.8ポイントと大幅に増加している。

(関心が高い順)

項目	回答数	割合	前年比	前年
ごみの減量、リサイクル	66	54.5%	△ 4.1%	58.6%
地球温暖化	65	53.7%	△ 3.2%	56.9%
大気汚染（空気の汚れ）	50	41.3%	1.6%	39.7%
エネルギー問題	47	38.8%	△ 6.0%	44.8%
川や海の水の汚れ	42	34.7%	1.9%	32.8%
ごみの散乱と不法投棄	37	30.6%	10.8%	19.8%
オゾン層の破壊	28	23.1%	4.1%	19.0%
有害な化学物質による環境汚染	22	18.2%	1.0%	17.2%
騒音、振動	20	16.5%	△ 5.9%	22.4%
身近な自然の減少	20	16.5%	9.6%	6.9%
悪臭	18	14.9%	0.2%	14.7%
土壌汚染	17	14.0%	0.2%	13.8%
農作物の鳥獣被害	16	13.2%	6.3%	6.9%
外来種ペットの飼育放棄や外来種の繁殖	14	11.6%	△ 0.5%	12.1%
野生生物や希少な動植物の減少	10	8.3%	△ 1.2%	9.5%
その他	3	2.5%	2.5%	0.0%
合計	475			

住まいの周辺環境の満足度

《市民のみ》

「満足」「やや満足」の回答した人が最も多かったのは、「ごみが決められたルール通りに出されるようになるための取り組み」であった。「満足」「やや満足」と回答した人の割合が前年より大幅に増加した項目は「まちの静けさ（5.0ポイント）」「空気のきれいさ（4.5ポイント）」「災害・水害からの安全性（3.1ポイント）」「省エネルギーの取り組み（3.0ポイント）」の4項目であった。一方で、大幅に減少した項目は「生き物（野鳥、昆虫、魚など）のふれあい（△4.4ポイント）」であった。

（「満足」「やや満足」と回答した人の割合が高い順）

質問事項 ()内の数値は「満足」「やや満足」と回答した人の割合の合計 []は前年	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
ごみが決められたルール通りに出されるようになるための取り組み (55% [55%])	149 12.6%	502 42.4%	257 21.7%	157 13.3%	43 3.6%	76 6.4%	1,184 100%
ごみを減らし、できるだけリサイクルする取り組み (50.4% [48%])	98 8.3%	499 42.1%	357 30.2%	128 10.8%	32 2.7%	70 5.9%	1,184 100%
自然の景観の美しさ (49.4% [51.3%])	129 10.9%	456 38.5%	318 26.9%	154 13.0%	39 3.3%	88 7.4%	1,184 100%
まちの静けさ（騒音や振動） (47.7% [42.7%])	154 13.0%	411 34.7%	318 26.9%	163 13.8%	54 4.6%	84 7.1%	1,184 100%
空気のきれいさ（車の排気ガス、星空の見え方など） (44.8% [40.3%])	111 9.4%	419 35.4%	320 27.0%	210 17.7%	51 4.3%	73 6.2%	1,184 100%
まちの清潔さ・きれいさ（ごみの散乱など） (44.1% [42.5%])	77 6.5%	445 37.6%	277 23.4%	261 22.0%	52 4.4%	72 6.1%	1,184 100%
まち並み（建物、街路、歴史的風情など）の美しさ (37.7% [37.2%])	68 5.7%	379 32.0%	432 36.5%	193 16.3%	36 3.0%	76 6.4%	1,184 100%
環境の状況や施策に関する市からの情報提供（広報紙、テレビ、ホームページなど） (33.3% [35.1%])	76 6.4%	319 26.9%	526 44.4%	151 12.8%	37 3.1%	75 6.3%	1,184 100%
災害・水害（洪水、浸水など）からの安全性 (33.1% [30%])	68 5.7%	325 27.4%	392 33.1%	263 22.2%	61 5.2%	75 6.3%	1,184 100%
水のきれいさ（河川・水路・池沼・海など） (32.7% [32.4%])	46 3.9%	341 28.8%	404 34.1%	250 21.1%	68 5.7%	75 6.3%	1,184 100%
水や水辺とのふれあい（身近に感じられるかどうか） (30.5% [32.3%])	69 5.8%	292 24.7%	428 36.1%	228 19.3%	90 7.6%	77 6.5%	1,184 100%
生きもの（野鳥、昆虫、魚など）とのふれあい (26.7% [31.1%])	62 5.2%	254 21.5%	564 47.6%	158 13.3%	61 5.2%	85 7.2%	1,184 100%
農地や土とのふれあい (25.9% [28.6%])	70 5.9%	237 20.0%	543 45.9%	191 16.1%	51 4.3%	92 7.8%	1,184 100%
省エネルギーの取り組み (21.4% [18.4%])	19 1.6%	235 19.8%	595 50.3%	177 14.9%	54 4.6%	104 8.8%	1,184 100%
再生可能エネルギー（太陽光発電、風力発電、水力発電などの枯渇しないエネルギー）の導入 (18.6% [18.7%])	30 2.5%	191 16.1%	503 42.5%	257 21.7%	97 8.2%	106 9.0%	1,184 100%
環境に関する講座や観察会などのイベント (15.9% [13.6%])	31 2.6%	157 13.3%	763 64.4%	123 10.4%	27 2.3%	83 7.0%	1,184 100%

住まいの周辺環境の重要度

《市民のみ》

「重要」「やや重要」の回答した人が最も多かったのは、「水のきれいさ」であった。また、「重要」「やや重要」と回答した人の割合が前年より大幅に減少したのは、「災害・水害からの安全性（△3.6ポイント）」「空気のきれいさ（△3.4ポイント）」「まちの静けさ（△4.2ポイント）」「まち並みの美しさ（△4.2ポイント）」「環境の状況や施策に関する市からの情報提供（△3.3ポイント）」「環境に関する講座や観察会などのイベント（△3.9ポイント）」の6項目であった。

一方で、前年より3ポイント以上増加した項目はなかった。
 （「満足」「やや満足」と回答した人の割合が高い順）

質問事項 ()内の数値は「重要」「やや重要」と回答した人の割合の合計 []は前年	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要でない	無回答	合計
水のきれいさ（河川・水路・池沼・海など） (80.5% [82.7%])	654 55.2%	300 25.3%	62 5.2%	4 0.3%	3 0.3%	161 13.6%	1,184 100%
災害・水害（洪水、浸水など）からの安全性 (80.1% [83.7%])	733 61.9%	215 18.2%	71 6.0%	3 0.3%	2 0.2%	160 13.5%	1,184 100%
まちの清潔さ・きれいさ（ごみの散乱など） (79.9% [82%])	613 51.8%	333 28.1%	65 5.5%	6 0.5%	2 0.2%	165 13.9%	1,184 100%
ごみが決められたルール通りに出されるように するための取り組み (78.8% [79.6%])	640 54.1%	293 24.7%	75 6.3%	7 0.6%	3 0.3%	166 14.0%	1,184 100%
ごみを減らし、できるだけリサイクルする取り組み (78.6% [79.8%])	612 51.7%	318 26.9%	79 6.7%	9 0.8%	1 0.1%	165 13.9%	1,184 100%
空気のきれいさ（車の排気ガス、星空の見え方など） (78.1% [81.5%])	651 55.0%	274 23.1%	85 7.2%	6 0.5%	2 0.2%	166 14.0%	1,184 100%
再生可能エネルギー（太陽光発電、風力発電、水力発電 などの枯渇しないエネルギー）の導入 (77% [79.3%])	692 58.4%	220 18.6%	86 7.3%	14 1.2%	5 0.4%	167 14.1%	1,184 100%
省エネルギーの取り組み (76.8% [79.3%])	678 57.3%	231 19.5%	78 6.6%	7 0.6%	2 0.2%	188 15.9%	1,184 100%
自然の景観の美しさ (75.3% [76.3%])	536 45.3%	355 30.0%	108 9.1%	12 1.0%	2 0.2%	171 14.4%	1,184 100%
まちの静けさ（騒音や振動） (71.5% [75.7%])	438 37.0%	409 34.5%	152 12.8%	10 0.8%	4 0.3%	171 14.4%	1,184 100%
まち並み（建物、街路、歴史的風情など）の美しさ (69.8% [73%])	409 34.5%	418 35.3%	163 13.8%	17 1.4%	5 0.4%	172 14.5%	1,184 100%
水や水辺とのふれあい（身近に感じられるかどうか） (65.9% [67.3%])	353 29.8%	428 36.1%	211 17.8%	26 2.2%	2 0.2%	164 13.9%	1,184 100%
環境の状況や施策に関する市からの情報提供（広報紙、 テレビ、ホームページなど） (63.6% [66.9%])	353 29.8%	400 33.8%	245 20.7%	18 1.5%	3 0.3%	165 13.9%	1,184 100%
農地や土とのふれあい (63.4% [63.5%])	316 26.7%	435 36.7%	232 19.6%	33 2.8%	2 0.2%	166 14.0%	1,184 100%
生きもの（野鳥、昆虫、魚など）とのふれあい (58% [58.6%])	303 25.6%	384 32.4%	277 23.4%	44 3.7%	11 0.9%	165 13.9%	1,184 100%
環境に関する講座や観察会などのイベント (50.1% [54%])	227 19.2%	366 30.9%	386 32.6%	33 2.8%	7 0.6%	165 13.9%	1,184 100%

環境に関する経営方針や管理手法の導入

《事業所のみ》

前年と比べ、「大変そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合が最も大きく減少した項目は「自主的な環境管理計画の策定」であり、7.2ポイント減少した。

(「満足」「やや満足」と回答した人の割合が高い順)

質問事項 ()内の数値は「大変そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合の合計 []は前年	すでに実施している	今後実施したい	現在検討中である	実施の予定はない	どのようなものか知らない	無回答	合計
環境担当部門や担当者の配置 (12.4% [18.1%])	13 10.7%	2 1.7%	6 5.0%	71 58.7%	14 11.6%	15 12.4%	121 100%
環境に関する内部監査の実施 (10% [10.4%])	10 8.3%	2 1.7%	6 5.0%	71 58.7%	16 13.2%	16 13.2%	121 100%
環境報告書の作成 (9.1% [12.1%])	9 7.4%	2 1.7%	8 6.6%	71 58.7%	15 12.4%	16 13.2%	121 100%
自主的な環境管理計画(環境に配慮した原材料、物品サービスなどの購入ガイドライン)の策定 (8.3% [15.5%])	7 5.8%	3 2.5%	10 8.3%	63 52.1%	22 18.2%	16 13.2%	121 100%
ISO14001の認証取得 (8.2% [5.1%])	9 7.4%	1 0.8%	3 2.5%	62 51.2%	33 27.3%	13 10.7%	121 100%
その他の環境マネジメントシステムの導入 (5.8% [3.5%])	5 4.1%	2 1.7%	5 4.1%	60 49.6%	34 28.1%	15 12.4%	121 100%
エコアクション21の認証取得 (2.5% [3.5%])	2 1.7%	1 0.8%	5 4.1%	48 39.7%	51 42.1%	14 11.6%	121 100%
その他 (0% [0.9%])	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	120 99.2%	121 100%

日頃行っている環境保全の取組

《市民》

「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合が最も高かったのは、前年と同様「ごみと資源物の分別をきちんと行いリサイクルに努めている」であった。「皿洗いや洗面などは、冷たくない程度の温水か、水を使うようにしている（△9.4ポイント）」「食材は地元産の旬のものを購入するよう努めている（△5.9ポイント）」「冷暖房を使う時の室温は、冷房28℃、暖房20℃を目安として、省エネに心がけている（△7.1ポイント）」の3項目で、昨年を大幅に下回った。

「油や食べ残しを排水溝へ流さないようにしている（18.7ポイント）」「歯を磨くときは水道を止めたり、風呂の残り水を洗濯に使ったり、日常の生活で節水に努めている（16.2ポイント）」の2項目で、前年を大幅に上回った。

（「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合が高い順）

質問事項 ()内の数値は「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合の合計 []は前年	いつも行っている	時々行っている	行っていないが今後行いたい	今後も行わない、又は行っていない	該当しない	無回答	合計
ごみと資源物の分別をきちんと行いリサイクルに努めている (92.9% [93.7%])	942 79.6%	157 13.3%	21 1.8%	7 0.6%		57 4.8%	1,184 100%
油や食べ残しを排水口へ流さないようにしている (90.8% [72.1%])	868 73.3%	207 17.5%	48 4.1%	7 0.6%		54 4.6%	1,184 100%
自動車を使用する際には不要なアイドリング、空ぶかしや急発進などをしないようにしてエコドライブを行っている(※) (88.4% [87.8%])	697 58.9%	234 19.8%	45 3.8%	14 1.2%	131 11.1%	63 5.3%	1,184 100%
物は大切に、修理したりして長く使うようにしている (85.0% [87.4%])	576 48.6%	431 36.4%	95 8.0%	23 1.9%		59 5.0%	1,184 100%
歯を磨くときは水道を止めたり、風呂の残り水を洗濯に使ったり、日常の生活で節水に努めている (83.3% [67.1%])	668 56.4%	318 26.9%	105 8.9%	36 3.0%		57 4.8%	1,184 100%
食材は無駄なく使い、鍋底から炎がはみ出さないようにするなどエコクッキングを行っている (82.8% [84.1%])	612 51.7%	368 31.1%	106 9.0%	34 2.9%		64 5.4%	1,184 100%
シャワーはこまめに止めて利用するよう心がけている(※) (81.8% [86.2%])	501 42.3%	286 24.2%	82 6.9%	32 2.7%	222 18.8%	61 5.2%	1,184 100%
皿洗いや洗面などは、冷たくない程度の温水か、水を使うようにしている (79.4% [88.8%])	564 47.6%	376 31.8%	114 9.6%	74 6.3%		56 4.7%	1,184 100%
テレビや照明をつけっぱなしにしないようにしたり、使っていない電化製品はコンセントからプラグを抜いたり、省エネに心がけている (76.5% [-])	456 38.5%	450 38.0%	171 14.4%	45 3.8%		62 5.2%	1,184 100%
生ごみの減量化に取り組んでいる (75.9% [77.7%])	532 44.9%	367 31.0%	178 15.0%	47 4.0%		60 5.1%	1,184 100%
詰め替え商品や再利用、再生利用しやすい商品やエコマークのついた商品を優先して購入している (75.2% [78.1%])	519 43.8%	372 31.4%	161 13.6%	70 5.9%		62 5.2%	1,184 100%
食材は地元産の旬のものを購入するよう努めている (75.1% [81.0%])	405 34.2%	484 40.9%	153 12.9%	68 5.7%		74 6.3%	1,184 100%
買い物には、買い物かごや買い物袋を持っていき、レジ袋はもらわないようにしている (73.5% [77.6%])	491 41.5%	379 32.0%	155 13.1%	100 8.4%		59 5.0%	1,184 100%
冷暖房を使うときの室温は、冷房28℃・暖房20℃を目安として、省エネに心がけている (73.0% [80.1%])	449 37.9%	416 35.1%	167 14.1%	83 7.0%		69 5.8%	1,184 100%
地域における環境保全活動に参加している (地域の清掃、資源集団回収など) (54.0% [59.6%])	360 30.4%	280 23.6%	277 23.4%	202 17.1%		65 5.5%	1,184 100%
なるべく公共交通機関や自転車などの利用や徒歩を心がけている (46.6% [44.1%])	243 20.5%	309 26.1%	298 25.2%	255 21.5%		79 6.7%	1,184 100%
ハイキングや九十九島の海などの身近な自然環境を楽しんでいる (38.7% [-])	114 9.6%	345 29.1%	452 38.2%	204 17.2%		69 5.8%	1,184 100%
環境家計簿をつけ、環境に優しい日常生活となっているかチェックしている (27.8% [16.7%])	161 13.6%	168 14.2%	375 31.7%	387 32.7%		93 7.9%	1,184 100%
環境保全に関するイベントや講座などに参加している (12.1% [-])	27 2.3%	116 9.8%	528 44.6%	427 36.1%		86 7.3%	1,184 100%

※「該当しない」を除いた割合で計算している。

《事業所》

「いつも行っている」「時々おこなっている」と回答した事業所の数が最も多かったのは、前年度に続き「紙、金属缶、ガラスびんなどについて、回収ボックス等を設置し、分別して適正に処理している」であった。

前年と比べ大幅に増加した項目はなかった。大幅に減少したのは「包装・梱包の削減、再利用をすすめている（△14.3ポイント）」「エコカーを導入している（△10.2ポイント）」「事業所内や周辺地域の緑化に努めている（△16.1ポイント）」「グリーン購入を行っている（△10.9ポイント）」「省エネのため製造工程や製造ラインを改造している（△10.2ポイント）」であった。

（「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合が高い順）

質問事項 ()内の数値は「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合の合計 []は前年	いつも行っている	時々行っている	行っていないが今後行いたい	今後も行わない、又は行っていない	該当しない	無回答	合計
紙、金属缶、ガラスびんなどについて、回収ボックス等を設置し、分別して適正に処理している ※(86.7% [92.6%])	76 62.8%	21 17.4%	4 3.3%	7 5.8%	9 7.4%	4 3.3%	121 100%
コピー用紙の使用量を減らしている（両面コピーや裏紙の利用等）(81.0% [87.0%])	56 46.3%	42 34.7%	10 8.3%	10 8.3%		3 2.5%	121 100%
昼休み等、不要な時は電気を消灯している(78.5% [81.1%])	54 44.6%	41 33.9%	14 11.6%	10 8.3%		2 1.7%	121 100%
コピー用紙には再生紙を使用している(77.7% [73.3%])	64 52.9%	30 24.8%	10 8.3%	13 10.7%		4 3.3%	121 100%
冷暖房の時間短縮や設定温度（目安：冷房28℃、暖房20℃）を徹底している(67.8% [69.0%])	30 24.8%	52 43.0%	26 21.5%	10 8.3%		3 2.5%	121 100%
古紙を使ったトイレトーパーを使用している(65.3% [66.4%])	55 45.5%	24 19.8%	21 17.4%	13 10.7%		8 6.6%	121 100%
包装・梱包の削減、再利用をすすめている(51.2% [65.5%])	27 22.3%	35 28.9%	28 23.1%	19 15.7%		12 9.9%	121 100%
不必要なアイドルングをやめるよう徹底している(48.0% [55.2%])	29 24.0%	29 24.0%	36 29.8%	20 16.5%		7 5.8%	121 100%
事業所周辺や、公園や道路の清掃など地域活動へ参加している(45.4% [51.7%])	23 19.0%	32 26.4%	31 25.6%	32 26.4%		3 2.5%	121 100%
エコカー（低公害車や低燃費車）を導入している(37.2% [47.4%])	31 25.6%	14 11.6%	42 34.7%	25 20.7%		9 7.4%	121 100%
事業所内や周辺地域の緑化に努めている(35.6% [51.7%])	18 14.9%	25 20.7%	36 29.8%	35 28.9%		7 5.8%	121 100%
グリーン購入を行っている(33.9% [44.8%])	15 12.4%	26 21.5%	47 38.8%	21 17.4%		12 9.9%	121 100%
使用していないときは、パソコンやコピー機等のコンセントを抜いている(32.2% [28.5%])	13 10.7%	26 21.5%	41 33.9%	36 29.8%		5 4.1%	121 100%
省エネのため製造工程や製造ラインを改善している ※(28.3% [38.5%])	6 5.0%	9 7.4%	15 12.4%	12 9.9%	68 56.2%	11 9.1%	121 100%
省エネのための効率的な輸配送システムがある ※(19.1% [23.1%])	5 4.1%	4 3.3%	14 11.6%	16 13.2%	74 61.2%	8 6.6%	121 100%
雨水や一時使用した水を再利用している(15.7% [15.5%])	9 7.4%	10 8.3%	22 18.2%	72 59.5%		8 6.6%	121 100%
自社製品、サービスにおける環境配慮内容を明示している(14.8% [18.1%])	9 7.4%	9 7.4%	29 24.0%	60 49.6%		14 11.6%	121 100%
従業員のマイカー通勤は自粛させている ※(11.8% [15.1%])	6 5.0%	6 5.0%	20 16.5%	64 52.9%	20 16.5%	5 4.1%	121 100%
環境保全に関する従業員研修を実施している(11.6% [10.3%])	6 5.0%	8 6.6%	40 33.1%	58 47.9%		9 7.4%	121 100%

※「該当しない」を除いた割合で計算している。

日常の取組みで障害と感じていること

《市民》

前年度と同じく「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」と回答した人が最も多かった。前年より大幅に減少した項目は「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」「手間がかかる」「取組を持続することが難しい」「取り組んだ成果が実感できない」「取組に対しての優遇措置（助成金等）が少ない」であった。大幅に増加した項目はなかった。

(障害と感じている割合が高い順)

項目	回答数	割合	前年比	前年
環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い	399	33.7%	△ 6.3%	40.0%
手間がかかる	257	21.7%	△ 6.7%	28.4%
何をどのように取り組めば良いのか分からない	250	21.1%	△ 0.9%	22.0%
特に障害を感じることはない	244	20.6%	1.0%	19.6%
取組を持続することが難しい	224	18.9%	△ 7.1%	26.0%
取り組んだ成果が実感できない	219	18.5%	△ 5.6%	24.1%
取組に対しての優遇措置（助成金等）が少ない	178	15.0%	△ 4.4%	19.4%
取り組まない場合でも、負担・規制・罰則などがない	162	13.7%	△ 1.5%	15.2%
行うきっかけがない	130	11.0%	1.2%	9.8%
今の生活が快適なので、変えたくない	81	6.8%	△ 2.2%	9.0%
その他	42	3.5%	0.3%	3.2%
無回答	173	14.6%	3.6%	11.0%
合計	2,359			

《事業所》

障害と感じている項目として最も回答割合が高かったのは、「何をどのように取り組めば良いのか分からない」であった。

前年と比べ大幅に増加した項目は「何をどのように取り組めば良いのか分からない」「取り組まない場合でも、負担・規制・罰則などがない」で、大幅に減少した項目は「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」「手間がかかる」であった。

(障害と感じている割合が高い順)

項目	回答数	割合	前年比	前年
何をどのように取り組めば良いのか分からない	41	33.9%	11.5%	22.4%
環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い	40	33.1%	△ 14.3%	47.4%
手間がかかる	31	25.6%	△ 13.2%	38.8%
取組を持続することが難しい	30	24.8%	△ 0.2%	25.0%
行うきっかけがない	27	22.3%	6.8%	15.5%
取り組まない場合でも、負担・規制・罰則などがない	23	19.0%	13.8%	5.2%
特に障害を感じることはない	21	17.4%	△ 4.2%	21.6%
取組に対しての優遇措置（助成金等）が少ない	18	14.9%	△ 3.2%	18.1%
取り組んだ成果が実感できない	16	13.2%	2.9%	10.3%
自社だけ取り組んでも仕方がないと思う	14	11.6%	5.6%	6.0%
無回答	8	6.6%	3.2%	3.4%
その他	5	4.1%	2.4%	1.7%
表彰・認証制度がない	3	2.5%	1.6%	0.9%
合計	277			

省エネルギー・再生可能エネルギー関連機器の設置・利用について

《市民》

質問事項 ()内の数値は、「現在利用している」「今後導入を 考えたい」「安くなれば導入したい」と回答した割合の合 計	現在利 用して いる	今後導 入を考 えたい	安くな れば導 入した い	導入す るつも り はない	わか ら ない	無回答	合計
太陽光発電 (37.5%)	109 9.2%	42 3.5%	294 24.8%	387 32.7%	180 15.2%	172 14.5%	1,184 100%
家庭用燃料電池(エネファーム) (27.3%)	40 3.4%	39 3.3%	244 20.6%	356 30.1%	312 26.4%	193 16.3%	1,184 100%
家庭用蓄電池 (36.5%)	40 3.4%	59 5.0%	333 28.1%	287 24.2%	270 22.8%	195 16.5%	1,184 100%
電気照明のLED電球への買い替え (81.6%)	531 44.8%	229 19.3%	207 17.5%	31 2.6%	44 3.7%	142 12.0%	1,184 100%
雨水貯留タンク (26.1%)	68 5.7%	75 6.3%	167 14.1%	361 30.5%	321 27.1%	192 16.2%	1,184 100%

《事業所》

質問事項 ()内の数値は、「現在利用している」「今後導入を考 えたい」「安くなれば導入したい」と回答した割合の合 計	現在利 用して いる	今後導 入を考 えたい	安くな れば導 入した い	導入す るつも り はない	わか ら ない	無回答	合計
太陽光発電設備 (33.9%)	12 9.9%	6 5.0%	23 19.0%	49 40.5%	23 19.0%	8 6.6%	121 100%
電気照明のLED電球への買い替え (93.4%)	62 51.2%	21 17.4%	30 24.8%	1 0.8%	3 2.5%	4 3.3%	121 100%
エコカー導入 (74.4%)	22 18.2%	20 16.5%	48 39.7%	13 10.7%	10 8.3%	8 6.6%	121 100%

「エコ資金」について

《事業者のみ》

項 目	回答数	割合	前年比	前年
名前も具体的な内容も知っている	1	0.8%	-0.9%	1.7%
名前は知っているが、具体的な内容は知らない	29	24.0%	8.5%	15.5%
初めて聞く名前である	84	69.4%	-5.6%	75.0%
無回答	7	5.8%	-2.0%	7.8%
合計	121			

「食品ロス」について

《市民のみ》

《食品ロスについて》 日本国内の年間の食品廃棄量は、食料消費全体の3割にあたる約2,800万トンで、このうち、本来食べられたはずの、いわゆる「食品ロス」は約632万トンとされています。日本人1人あたりに換算すると、「お茶碗約1杯分(約136g)の食べ物」が毎日捨てられている計算となります。日本の食料自給率は現在39%(平成27年度)で、大半を輸入に頼っていますが、一方で食べられる食料を大量に捨てており、その半数は家庭から出されています。

■ 上記のような日本の「食品ロス」の状況について、知っていたか

項目	回答数	割合
知っていた	787	66.5%
知らなかった	229	19.3%
無回答	168	14.2%
合計	1,184	

■ これまでに、食品を食べることができずに、捨てたことがあるか

項目	回答数	割合
捨てたことがある	848	71.6%
捨てたことはない	172	14.5%
無回答	164	13.9%
合計	1,184	

■ 「捨てたことがある」と答えた方において、捨てた理由 (該当するものすべてに○を記入)

項目	回答数	割合
食品の鮮度が落ちたり、腐ったり、カビが生えたから	642	75.7%
食品の消費期限・賞味期限を過ぎたから	490	57.8%
食品の色やにおいなどで不安を感じたから	427	50.4%
食品が中途半端に余ったから	151	17.8%
その他	30	3.5%
合計	1,740	

有効回答数(N)=848

■ 食品ロスをなくす取り組みをしているか

項目	回答数	割合
いつも行っている	359	30.3%
時々行っている	444	37.5%
行っていないが、今後取り組んでみたい	140	11.8%
行っていないし、今後もし取り組むまいと思わない	6	0.5%
無回答	235	19.8%
合計	1,184	

「3010運動」について

《市民》

《3010(サンマルイチマル)運動について》

3010(サンマルイチマル)運動は、宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、「乾杯後30分前」は席を立たずに料理を楽しみましょう、「お開き10分前」になったら、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう、と呼びかけて、宴会を楽しみながら、食品ロスを削減するものです。

■ 「3010運動」について、知っていたか

項 目	回答数	割合
知っていた	137	11.6%
知らなかった	997	84.2%
無回答	50	4.2%
合計	1,184	

■ 「3010運動」について、取り組んだことがあるか

項 目	回答数	割合
いつも取り組んでいる、または取り組んだことがある	108	9.1%
取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい	510	43.1%
取り組んだことはなく、今後も取り組んでみたいとは思わない	85	7.2%
宴会に参加する機会がない	381	32.2%
無回答	100	8.4%
合計	1,184	

《事業者》

■ 「3010運動」について、知っていたか

項 目	回答数	割合
知っていた	17	14.1%
知らなかった	99	81.8%
無回答	5	4.1%
合計	121	

■ 「3010運動」について、取り組んだことがあるか

項 目	回答数	割合
いつも取り組んでいる、または取り組んだことがある	7	5.7%
取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい	70	56.9%
取り組んだことはなく、今後も取り組んでみたいとは思わない	8	6.5%
宴会を開く機会がない	29	23.6%
無回答	9	7.3%
合計	123	